

第2回「健やか親子21」推進検討会 議事次第

日時：平成17年7月1日（金）

15：00～17：00

場所：航空会館B101会議室

1 開 会

2 議 題

- (1) 「健やか親子21」の指標の分析・評価の検討
- (2) 健やか親子21推進協議会の取組実績の調査方法（案）の検討
- (3) 妊産婦等を取り巻く社会環境の整備について
- (4) 「食を通じた妊産婦の健康支援方策研究会」報告書骨子（案）の検討

3 閉 会

配 布 資 料

- 資料1 「健やか親子21」指標の分析・評価のための調査実施状況・・・1
- 資料2 健やか親子21推進協議会の取組実績の調査方法(案)・・・・・・ 11
- 資料3 妊産婦等を取り巻く社会環境の整備について・・・・・・・・・ 15
- 資料4 「食を通じた妊産婦の健康支援方策研究会」報告書骨子(案)・・ 17
- 資料5 「健やか親子21」推進検討会スケジュール・・・・・・・・・ 23

「健やか親子21」指標の分析・評価のための調査実施状況

課題1 思春期の保健対策の強化と健康教育の推進

指標	策定時の現状値	ベースライン調査等	目標	暫定直近値、調査項目	調査方法
【保健水準の指標】					
1-1 十代の自殺率	5～9歳 — 10～14歳 1.1(男1.7 女0.5) 15～19歳 6.4(男8.8 女3.8)	H12人口動態統計	減少傾向へ	5～9歳 0.0 10～14歳 1.1(男1.0 女1.1) 15～19歳 7.3(男8.8 女5.6)	H15人口動態統計
1-2 十代の人工妊娠中絶実施率	12.1	H12母体保護統計	減少傾向へ	11.9	H15衛生行政報告例
1-3 十代の性感染症罹患率	性器クラミジア感染症 男子196.0 女子968.0 淋菌感染症 男子145.2 女子132.2 (有症感染率 15～19歳) *①性器クラミジア 5,697件 ②淋菌感染症 1,668件 ③尖圭コンジローマ 657件 ④性器ヘルペス 475件 (20歳未満、定点医療機関:897カ所)	H12「本邦における性感染症流行の実態調査」熊本悦明班 *H12感染症発生動向調査	減少傾向へ	*定点報告(920カ所)による件数は ①6,198件 ②2,189件 ③746件 ④563件	熊本班と同様の調査なし *H15感染症発生動向調査
1-4 15歳の女性の思春期やせ症の発生頻度	中学3年 5.5% 高校3年生 13.4%	H14「思春期やせ症(神経性食欲不振症)の実態把握及び対策に関する研究」渡辺久子班	減少傾向へ	調査中	H17「思春期やせ症(神経性食欲不振症)の実態把握及び対策に関する研究」渡辺久子班
【住民自らの行動の指標】					
1-5 薬物乱用の有害性について正確に知っている小・中・高校生の割合	急性中毒 依存症 小学6年男子 53.3% 73.1% 小学6年女子 56.2% 78.0% 中学3年男子 62.3% 82.5% 中学3年女子 69.1% 90.6% 高校3年男子 70.9% 87.1% 高校3年女子 73.0% 94.0%	文部科学省 H12「薬物に対する意識等調査」	100%	調査中	H17文部科学省「薬物に対する意識等調査」

1-6 十代の喫煙率	中学1年男子 7.5% 女子3.8% 高校3年男子 36.9% 女子15.6%	健康日本21「4. 2未成年者の喫煙をなくす」の現状値	なくす	調査中	健康日本21「4. 2未成年者の喫煙をなくす」の調査
1-7 十代の飲酒率	中学3年男子 25.4% 女子17.2% 高校3年男子 51.5% 女子35.9%	健康日本21「5. 2未成年者の飲酒をなくす」の現状値	なくす	調査中	健康日本21「5. 2未成年者の飲酒をなくす」の調査
1-8 避妊法を正確に知っている18歳の割合	大学1～4年生 男子26.2% 女子28.3%	H13「思春期の保健対策の強化及び健康教育の推進に関する研究」衛藤隆班	100%	17～19歳 男子12.5% 女子22.7%	H16「望まない妊娠・人工妊娠中絶の防止」佐藤郁夫班
1-9 性感染症を正確に知っている高校生の割合	性器クラミジア感染症 男子11.3% 女子16.5% 淋菌感染症 男子15.4% 女子14.5% (高校1～3年生)	H11「児童生徒の性」調査 東京都幼・小・中・高・心障性教育研究会調査	100%	性器クラミジア感染症 男子48.4% 女子55.8% 淋菌感染症 男子19.9% 女子20.1% (高校生)	H16 南アルプス市における調査
【行政・関係団体等の取組の指標】					
1-10 学校保健委員会を開催している学校の割合	72.20%	文部科学省 学校保健委員会設置率(H13.5月現在)	100%	79.34%	文部科学省 H16年度学校保健委員会設置率
1-11 外部機関と連携した薬物乱用防止教育等を実施している中学校、高校の割合	警察職員 麻薬取締官等 中学校 33.8% 0.1% 高等学校 32.7% 4.0%	文部科学省 H12「薬物に対する意識等調査」	100%	調査中	H17文部科学省「薬物に対する意識等調査」
1-12 スクール・カウンセラーを配置している中学校の割合	22.5%(3学級以上の公立中学校)	文部科学省「H13年度学校基本調査」	100%	46.1%(3学級以上の公立中学校)	H15 文部科学省初等中等教育局児童生徒課
1-13 思春期外来(精神保健福祉センターの窓口を含む)の数	523ヶ所	H13「思春期の保健対策の強化及び健康教育の推進に関する研究」望月友美子班	増加傾向	「精神保健福祉センターが把握している思春期関連の相談ができる医療機関の数」(保健所での把握数でも可)	H17自治体調査(母子保健課)

課題2 妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援

指標	策定時の現状値	ベースライン調査等	目標	暫定直近値、調査項目	調査方法
【保健水準の指標】					
2-1 妊産婦死亡率	6.6(出生10万対) 78人	H13人口動態統計	半減	6.0(出産10万対) 69人	H15人口動態統計
2-2 妊娠・出産について満足している者の割合	84.40%	H12幼児健康度調査	100%	「妊娠・出産についての状況はいかがでしたか」とも満足・満足・満足していない・全く満足していないの4段階で評価、満足・満足していないの理由についても調査	H17「健やか親子21の推進のための情報システム構築と各種情報の利活用に関する研究」山縣 然太郎班
2-3 産後うつ病の発生率	13.40%	H13「産後うつ病の実態調査ならびに予防的介入のためのスタッフの教育研修活動」中野 仁雄班	減少傾向へ	調査中	H17「健やか親子21の推進のための情報システム構築と各種情報の利活用に関する研究」山縣 然太郎班
【住民自らの行動の指標】					
2-4 妊娠11週以下での妊娠の届出率	62.60%	H8地域保健・老人保健事業報告	100%	66.17%	H15地域保健事業報告
2-5 母性健康管理指導事項連絡カードを知っている妊婦の割合	6.30%	H12「妊産婦の健康管理および妊産婦死亡の防止に関する研究」西島正博班	100%	調査中	H17「健やか親子21の推進のための情報システム構築と各種情報の利活用に関する研究」山縣 然太郎班
【行政・関係団体等の取組の指標】					
2-6 周産期医療ネットワークの整備	14都府県	母子保健課(H13. 3月現在)	2005年までに全都道府県	29都道府県	母子保健課(H17. 3月現在)

2-7 正常分娩急変時対応のためのガイドライン作成		H13～14「助産所における安全で快適な妊娠・出産環境の確保に関する研究」青野敏博班	作成	「助産所における分娩の適応リスト」および「正常分娩急変時のガイドライン」作成→日本助産師会において頒布、会員へ周知	
2-8 妊産婦人口に対する産婦人科医・助産師の割合	(妊産婦人口10万対) 産婦人科医 842.3 助産師 1953.7	産婦人科医「H12医師・歯科医師・薬剤師調査」 助産師「H12衛生行政報告例」	増加傾向	(妊産婦人口10万対) 産婦人科医 898 助産師 2058.5	H14医師・歯科医師・薬剤師調査 H14衛生行政報告例
2-9 不妊専門相談センターの整備	18ヶ所	母子保健課(H13.3月現在)	2005年までに全都道府県	51カ所	母子保健課(H16)
2-10 不妊治療を受ける際に、患者が専門家によるカウンセリングが受けられる割合	24.90%	H13「生殖補助医療の適応及びそのあり方に関する研究」矢内原巧班	100%	調査中	H16「生殖補助医療の安全管理および心理的支援を含む統合的運用システムに関する研究」吉村泰典班
2-11 不妊治療における生殖補助医療技術の適応に関するガイドラインの作成		H16「生殖補助医療の安全管理および心理的支援を含む統合的運用システムに関する研究」吉村泰典班	作成	研究では作成済みだが公表未	H16「生殖補助医療の安全管理および心理的支援を含む統合的運用システムに関する研究」吉村泰典班

課題3 小児保健医療水準を維持・向上させるための環境整備

指標	策定時の現状値	ベースライン調査等	目標	暫定直近値、調査項目	調査方法
【保健水準の指標】					
3-1 周産期死亡率	出産千対5.8 出生千対3.8	H12人口動態統計	世界最高を維持	出産千対5.3 出生千対3.6	H15人口動態統計
3-2 全出生数中の極低出生体重児の割合。全出生数中の低出生体重児の割合	極低出生体重児0.7% 低出生体重児8.6%	H12人口動態統計	減少傾向へ	極低出生体重児0.7% 低出生体重児9.1%	H15人口動態統計
3-3 新生児死亡率 乳児死亡率	(出生千対) 新生児死亡率1.8 乳児死亡率3.2	H12人口動態統計	世界最高を維持	(出生千対) 新生児死亡率1.7 乳児死亡率3.0	H15人口動態統計

3-4 乳児のSIDS死亡率	出生10万対26.6	H12人口動態統計	半減	出生10万対19.4	H15人口動態統計
3-5 幼児(1~4歳)死亡率	人口10万対30.6	H12人口動態統計	半減	人口10万対25.0	H15人口動態統計
3-6 不慮の事故死亡率	人口10万対 0歳 18.2 ~4歳 6.6 5~9歳 4.0 10~14歳 2.6 15~19歳 14.2	H12人口動態統計	半減	人口10万対 0歳 13.4 ~4歳 5.0 5~9歳 3.7 10~14歳 2.4 15~19歳 11.7	H15人口動態統計
【住民自らの行動の指標】					
3-7 妊娠中の喫煙率、育児期間中の両親の自宅での喫煙率	妊娠中 10.0% 育児期間中 父親35.9% 母親12.2%	H12乳幼児身体発育調査 21世紀出生児縦断調査	なくす	「妊娠中のあなた(お母さん)の喫煙」 (育児期間中の) 「あなた(お母さん)の喫煙」 「夫(お父さん)の喫煙」	H17「健やか親子21の推進のための情報システム構築と各種情報の利活用に関する研究」山縣然太郎班
3-8 妊娠中の飲酒率	18.10%	H12乳幼児身体発育調査	なくす	「妊娠中のあなた(お母さん)の飲酒」	H17「健やか親子21の推進のための情報システム構築と各種情報の利活用に関する研究」山縣然太郎班
3-9 かかりつけの小児科医を持つ親の割合	81.7% 1~6歳児の親	H12幼児健康度調査	100%	「かかりつけの医師はいますか」(小児科医とは限らない)	H17「健やか親子21の推進のための情報システム構築と各種情報の利活用に関する研究」山縣然太郎班
3-10 休日・夜間の小児救急医療機関を知っている親の割合	1歳6ヶ月児 86.6% 3歳児 88.8%	H13「子どもの事故防止と市町村への事故対策支援に関する研究」田中哲郎班	100%	「休日や夜間にお子さんが急病の時、診察してもらえる医療機関を知っていますか」	H17「健やか親子21の推進のための情報システム構築と各種情報の利活用に関する研究」山縣然太郎班
3-11 事故防止対策を実施している家庭の割合	1歳6ヶ月児 4.2% 3歳児 1.8%	H13「子どもの事故防止と市町村への事故対策支援に関する研究」田中哲郎班	100%	「子どもの事故について」の設問22項目	H17「健やか親子21の推進のための情報システム構築と各種情報の利活用に関する研究」山縣然太郎班
3-12 乳幼児のいる家庭で風呂場のドアを乳幼児が自分で開けることができないよう工夫した家庭の割合	31.3% 1歳6ヶ月児のいる家庭	H13「子どもの事故防止と市町村への事故対策支援に関する研究」田中哲郎班	100%	「浴室のドアには、子どもが一人で開けることができないような工夫がしてありますか」	H17「健やか親子21の推進のための情報システム構築と各種情報の利活用に関する研究」山縣然太郎班

3-13 心肺蘇生法を知っている親の割合	1歳6ヶ月児 19.8% 3歳児 21.3%	H13「子どもの事故防止と市町村への事故対策支援に関する研究」田中哲郎班	100%	「あなたは心肺蘇生法(心臓マッサージなどの救急処置)を知っていますか」	H17「健やか親子21の推進のための情報システム構築と各種情報の利活用に関する研究」山縣然太郎班
3-14 乳児期にうつぶせ寝をさせている親の割合	3.50%	H13「子どもの事故防止と市町村への事故対策支援に関する研究」田中哲郎班	なくす	「お子さんを寝かせ始めるときはどのように寝かせていますか」 あおむけ寝・うつぶせ寝・決めていない・その他から選択	H17「健やか親子21の推進のための情報システム構築と各種情報の利活用に関する研究」山縣然太郎班
3-15 1歳までにBCG接種を終了している者の割合	86.60%	H12幼児健康度調査	95%	1歳6ヶ月児健診時に「BCG接種を済ませましたか」→「接種したのはいつですか」	H17「健やか親子21の推進のための情報システム構築と各種情報の利活用に関する研究」山縣然太郎班
3-16 1歳6ヶ月までに三種混合・麻疹の予防接種を終了している者の割合	三種混合87.5% 麻疹70.4%	H12幼児健康度調査	95%	1歳6ヶ月児健診時に「三種混合の予防接種(I期3回)を済ませましたか」→「I期3回が済んだのはいつですか」 「麻疹(はしか)の予防接種を済ませましたか」→「接種したのはいつですか」	H17「健やか親子21の推進のための情報システム構築と各種情報の利活用に関する研究」山縣然太郎班
【行政・関係団体等の取組の指標】					
3-17 初期、二次、三次の小児救急医療体制が整備されている都道府県の割合	初期70.2% 二次12.8% 三次100%	H13「二次医療圏毎の小児救急医療体制の現状等の評価に関する研究」田中哲郎班	100%	都道府県に対して「小児二次救急体制の整備」 市町村に対して「小児の初期救急体制(在宅当番医、休日夜間急患センター)の整備」	H17自治体調査(母子保健課)
3-18 事故防止対策を実施している市町村の割合	3~4ヶ月児健診 32.6% 1歳6ヶ月児健診 28.6%	H13「子どもの事故防止と市町村への事故対策支援に関する研究」田中哲郎班	100%	市町村に対して「乳幼児健康診査の際に事故防止対策事業を実施していますか」対策について7項目の選択を設定	H17自治体調査(母子保健課)

3-19 小児人口に対する小児科医・新生児科医師・児童精神科医師の割合	(小児人口10万対) 小児科医 77.1 新生児科に勤務する医師 3.9 児童精神医学分野に取り組んでいる小児科医もしくは精神科医 5.7	小児科医「H12医師・歯科医師・薬剤師調査」 H13「周産期医療水準の評価と向上のための環境整備に関する研究」中村肇班 H13「思春期の保健対策の強化及び健康教育の推進に関する研究」諸岡啓一班	増加傾向へ	(小児人口10万対) 小児科医 81.6 新生児科医(調査中、結果7月中目途) 児童精神医学分野に取り組んでいる小児科医もしくは精神科医 13.4	H14医師・歯科医師・薬剤師調査による小児科医師数: 32,706名(重複)、14,481名 新生児科医師数: 母子保健課にて調査中 日本児童青年精神医学会認定の児童精神科医数: 106名(H16.4.1現在)、学会加入人数: 2,384名(ベースラインは学会加入人数) H15小児人口(0~14歳): 17,753,000人
3-20 院内学級・遊戯室を持つ小児病棟の割合	院内学級 30.1% 遊戯室 68.6%	H13(社)日本病院会調べ	100%	都道府県に対して「小児病棟を持つ病院における院内学級(養護学校の分室を含む)の設置数」「小児病棟を持つ病院における遊戯室(プレイルーム)設置数」	H17自治体調査(母子保健課)
3-21 慢性疾患児等の在宅医療の支援体制が整備されている市町村の割合	16.70%	H13「地域における新しいヘルスコンサルティングシステムの構築に関する研究」山縣然太郎班	100%	市町村に対して「慢性疾患児等の在宅医療の支援体制の整備」	H17自治体調査(母子保健課)

課題4 子どもの心の安らかな発達の促進と育児不安の軽減

指標	策定時の現状値	ベースライン調査等	目標	暫定直近値、調査項目	調査方法
【保健水準の指標】					
4-1 虐待による死亡数	44人 児童虐待事件における被害児童数	H12警察庁調べ	減少傾向へ	51人	H16警察庁調べ
4-2 法に基づき児童相談所等に報告があった被虐待児数	17,725件 児童相談所での相談処理延べ件数	H12社会福祉行政業務報告	増加を経て減少へ	26,569件	H15社会福祉行政業務報告

4-3 子育てに自信が持てない母親の割合	27.40%	H12幼児健康度調査	減少傾向へ	「お母さんは育児に自信が持てないことがありますか」	H17「健やか親子21の推進のための情報システム構築と各種情報の利活用に関する研究」山縣然太郎班
4-4 子どもを虐待していると思う親の割合	18.10%	H12幼児健康度調査	減少傾向へ	「お母さんは子どもを虐待しているのではないかと思うことがありますか」→「それはどのようなことですか」	H17「健やか親子21の推進のための情報システム構築と各種情報の利活用に関する研究」山縣然太郎班
4-5 ゆったりとした気分で子どもと過ごせる時間がある母親の割合	68.00%	H12幼児健康度調査	増加傾向へ	「お母さんはゆったりとした気分でお子さんと過ごせる時間がありますか」	H17「健やか親子21の推進のための情報システム構築と各種情報の利活用に関する研究」山縣然太郎班
【住民自らの行動の指標】					
4-6 育児について相談相手がいる母親の割合	99.20%	H12幼児健康度調査	増加傾向へ	「お母さんにとって日常の育児の相談相手は誰ですか」	H17「健やか親子21の推進のための情報システム構築と各種情報の利活用に関する研究」山縣然太郎班
4-7 育児に参加する父親の割合	よくやっている 37.4% 時々やっている 45.4%	H12幼児健康度調査	増加傾向へ	「お父さんは育児をしていますか」	H17「健やか親子21の推進のための情報システム構築と各種情報の利活用に関する研究」山縣然太郎班
4-8 子どもと一緒に遊ぶ父親の割合	よく遊ぶ 49.4% 時々遊ぶ 41.4%	H12幼児健康度調査	増加傾向へ	「お父さんはお子さんとよく遊んでいますか」	H17「健やか親子21の推進のための情報システム構築と各種情報の利活用に関する研究」山縣然太郎班
4-9 出産後1ヶ月時の母乳育児の割合	44.80%	H12乳幼児身体発育調査	増加傾向へ	「生後1ヶ月時の栄養法はどうでしたか」	H17「健やか親子21の推進のための情報システム構築と各種情報の利活用に関する研究」山縣然太郎班
【行政・関係団体等の取組の指標】					

4-10 周産期医療施設から退院したハイリスク児へのフォロー体制が確立している二次医療圏の割合	85.2% (保健所におきかえて調査している)	H13「地域における新しいヘルスコンサルティングシステムの構築に関する研究」山縣然太郎班	100%	「周産期医療機関から退院したハイリスク児へのフォロー体制が確立している保健所の数」(ベースライン調査と比較可能かつ未熟児訪問の実施等は保健所が行っているため)	H17自治体調査(母子保健課)
4-11 乳幼児の健康診査に満足している者の割合	30.50%	H12幼児健康度調査	増加傾向へ	「健診を受けた感想はいかがですか」(複数回答可)	H17「健やか親子21の推進のための情報システム構築と各種情報の利活用に関する研究」山縣然太郎班
4-12 育児支援に重点をおいた乳幼児健康診査を行っている自治体の割合	64.40%	H13「地域における新しいヘルスコンサルティングシステムの構築に関する研究」山縣然太郎班	100%	市町村に対して「育児支援に重点をおいた乳幼児健康診査の実施」	H17自治体調査(母子保健課)
4-13 常勤の児童精神科医がいる児童相談所の割合	3.30%	H12雇児局総務課調べ	100%	3.30%	H15雇児局総務課調べ
4-14 情緒障害児短期治療施設数	17施設(15府県)	H12雇児局家庭福祉課調べ	全都道府県	25施設	H15雇児局家庭福祉課調べ
4-15 育児不安・虐待親のグループの活動の支援を実施している保健所の割合	35.70%	H13「地域における新しいヘルスコンサルティングシステムの構築に関する研究」山縣然太郎班	100%	都道府県に対して「育児不安・虐待にかかる親のグループ活動支援を実施している保健所の数」を、市町村に対してはその取組の有無を尋ねた。(育児不安や虐待への対応は市町村にも求められるため)	H17自治体調査(母子保健課)
4-16 親子の心の問題に対応できる技術を持った小児科医の割合	6.40%	H13(社)日本小児科医会調べ	100%	8.41%	小児科医会認定「子どものこころ相談医」数: 1,218名(H17.2月現在) 小児科医数: 14,481名(H14.12.31現在)

